

かけはしがわ



発行 国土交通省金沢河川国道事務所



梯川分水路が完成しました！



梯川改修の一環で整備してきた天神地区の分水路方式による改修事業が、計画策定から21年を経て完成しました。分水路方式により国指定重要文化財を現位置のまま保全した河川改修は大変珍しく、地域のシンボルとして期待されています。

平成29年11月19日（日）、事業にご協力いただいた地域の皆様に感謝の意を表するとともに、治水事業の役割や効果を改めてご理解いただき、防災意識の高揚を図ることを目的として記念式典を行いました。

ご来賓の皆様からお祝いのお言葉をいただきましたのでご紹介します。



谷本石川県知事

県・地元あげて梯川の一級河川への格上げと抜本的な治水対策を強くお願いして参りました。

これまでの川幅の拡幅、堤防の高上げ、河道掘削等の治水工事により最近は大雨が降っても川が氾濫せず大きな成果を生み出しています。分水路の整備は終わりましたが、これからも上流に向けて治水を進め、沿川の住民の皆さんの安全・安心をしっかりと担保していただきたい。



佐々木衆議院議員

この分水路は文化財の保護と治水工事、そしてまちづくりと道づくり、まさに一石三鳥、四鳥の効果のある事業であると思います。

ぜひ、小松の観光の名所としても、そして治水工事の必要性を多くの皆様に知って頂く施設としても、大いに活用し、そして発信をしていく必要があると思います。



宮本参議院議員

この地域において、まさに三位一体のプロジェクトとして行われてきました。

着実にこの地域が、そして小松市がしっかりと未来に向かって持続的に発展をするその礎ができたものと思います。



和田小松市長【謝辞】

関係の皆様強い志により素晴らしい町並み、川づくり、道づくりが実現しました。

昨今は、温暖化の影響が出水が多くなっています。国・県においては、市民や来訪される皆さんの一段の安全や、心地よい安心を届けていただくことをお願いします。

多くのみなさまに梯川分水路を知っていただくために…

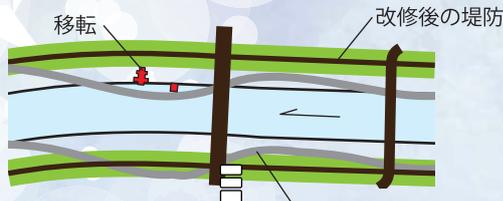
梯川分水路について調べてみよう！

なぜ分水路方式になったの？

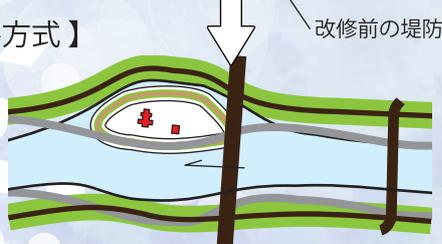
梯川は、昭和46年に一級河川に指定され、洪水を安全に流下させるため、80mから120mに川幅を拡幅する計画が策定されました。

梯川の河川改修計画に合わせて、小松天満宮神門および本殿の移転が必要となりました。しかし、小松天満宮は、国の重要文化財に指定されており、小松市の歴史的・文化的シンボルであることから、現位置で保全する「分水路方式」が採用されました。

【従来の河川整備方式】

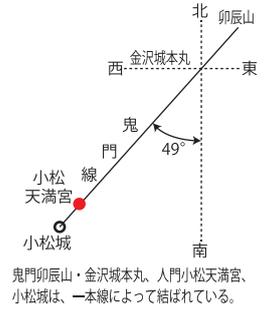


【分水路方式】



豆知識

小松天満宮は、卯辰山、金沢城本丸、小松城によって一直線で結ばれる位置にあり、「小松城の鬼門にあたる良の方向、すなわち東北にあたる梯川のほとりを選び、小松城の守りを堅固にすることを願ったもの」と言われています。



昭和36年に国指定重要文化財に指定された神門は、四脚門、切妻造で屋根は銅板葺になっています。

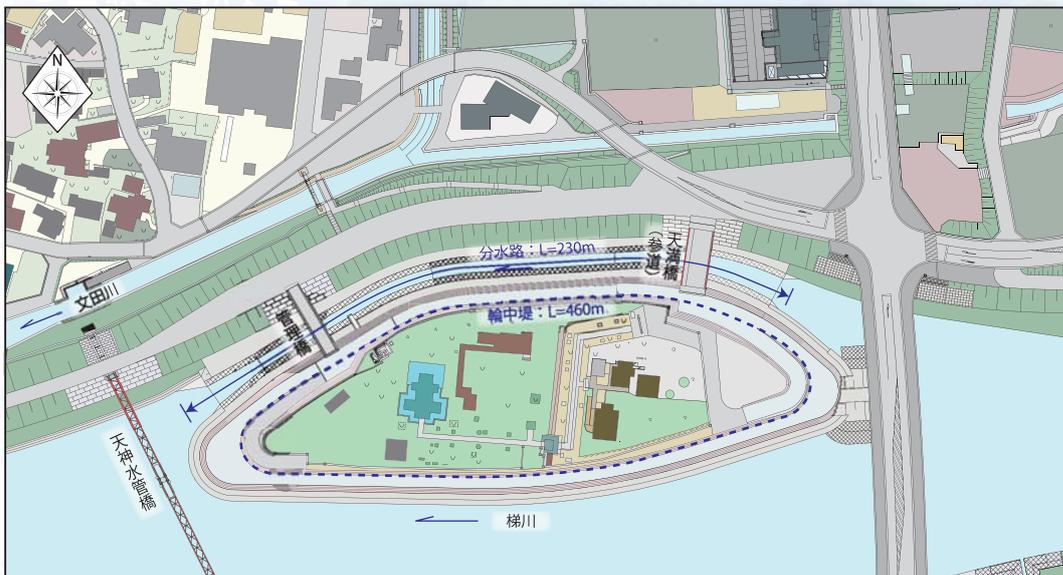
当時の加賀藩のお抱え大工で那谷寺・瑞龍寺などの造成にたずさわった名工山上善右衛門の手に成ったものです。



加賀藩三代藩主前田利常公が小松城に遷居された時に、前田氏の氏神である北野天神を城の鬼門北東の方角に当たるこの地に社殿を造営して鎮祭されたのが小松天満宮です。また、冬至の日の出の光が神門を通り本殿に差し込んでくるように社殿配置がされています。

梯川分水路にはたくさんの土木技術が使われている！

梯川の洪水を安全に海へ流すために、模型実験により分水路の幅や川の形状が検討されました。また、梯川分水路周辺の土質は、緩い砂質地盤であることから、堤防の下に耐震対策を施しています。



分水路水理模型実験の様子



河川環境に配慮した水際

梯川分水路には魚類が生息しやすいように魚巢効果のあるブロックを用いた工夫などがされています。また、梯川の水辺部は、間伐材を利用した粗朶柵を^{そださく}設置しています。数年後には柳が活着し、水際に植生が繁茂することによって良好な景観が創出される他、魚類の隠れ場として生態系にも配慮しています。



施工直後

工事実施数年後 (イメージ)

粗朶柵



魚巢効果のあるブロック



ボラ

スズキ

梯川に住む魚の一部

見るだけじゃない！ 色々学ぶことができます！

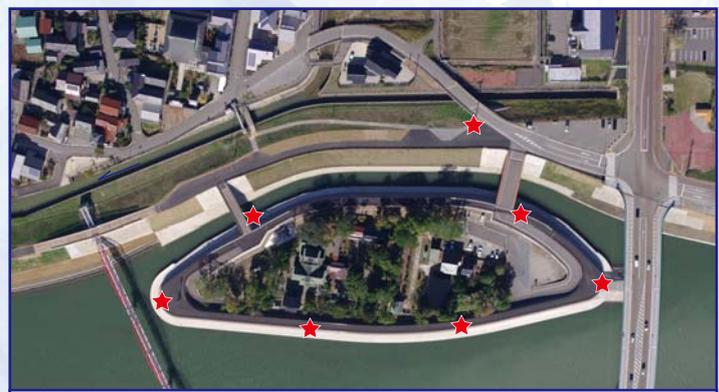
輪中堤には随所、小さな看板があります。看板の右下にQRコードがあり、スマートフォンで読み取ると動画が再生されるようになっています。梯川の治水の歴史をはじめ、いろいろな動画を用意してありますので、学習の場として最適です。



小松大橋 (平成 23 年完成)

小松大橋が架けられる以前、人々は上流の北国街道である梯大橋を渡っていました。その後、昭和 10 年 3 月に国道 12 号として初代の小松大橋が架けられました。現在の小松大橋は分水路改修とあわせ県道小松根上線として平成 23 年度に架替が行われ 2 代目となります。

QRコードはここ



輪中堤の 7 箇所 (★印) に説明看板を設けました。各看板には、分水路に関する説明や梯川の内容などを動画 (Youtube) にて説明しています。

たくさんの方に見学していただきました

11月6日(月)から7日(火)にかけて、梯川分水路の工事見学会を行い、大勢の方々にご参加していただきました。ご参加された方々は、当時の思い出と今の梯川分水路を見比べ、「あの頃は堤防の幅が狭くて危なかったけど、広がって安心した」など感嘆の声を上げていました。梯川分水路の完成はメディアにも取り上げられ、小松の新しいインフラツーリズム*の拠点としても期待されています。

*インフラツーリズム…公共施設や土木景観を観光資源と位置づけ、実際に現地へ赴き観光旅行すること。



工事見学会の様子

小松大橋の今・昔

小松大橋周辺では、梯川の河川改修に合わせて、老朽化した小松大橋の架け替えと旧北国街道の面影を感じるまちなみ整備を一体的に行うことにより、小松市中心部への北の玄関口にふさわしい整備を行いました。



平成 23 年 2 月



昭和初期

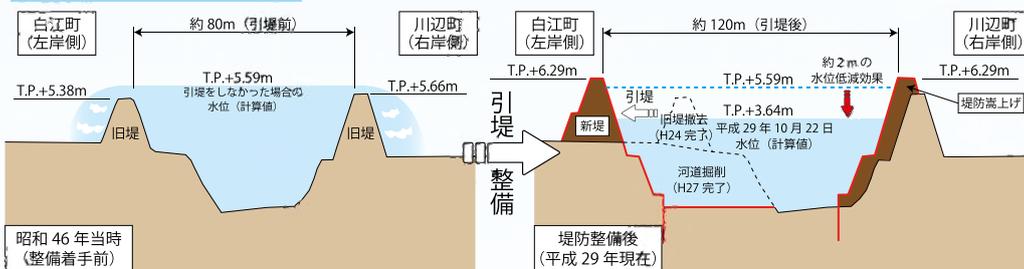
10月22日台風21号による 治水効果を確認しました！

10月22日に台風21号の影響により梯川の水位が氾濫危険水位を超過したため、8月8日に続き2回目となる緊急速報メールを発信し、避難警戒を呼びかけました。この洪水は埴田水位観測所において、観測史上8番目の規模であり、上流の赤瀬ダムと梯川河川改修により最大約2m水位が低下し、氾濫を防ぐことができました。



赤瀬ダムの貯水状況

梯川の改修効果



平成29年12月末現在、以下に示す改修工事(①～⑪)が完成あるいは施工中となっています。工事が完了した箇所におきましては、周辺のみならずご協力いただきありがとうございました。また、工事が継続する箇所におきましては、引き続きご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

平成29年12月末時点

番号	工事名	工期	受注者
①	H28梯川河道掘削工事	平成29年3月23日～平成30年2月16日	真柄建設 株式会社
②	H28梯川天神輪中堤その2工事	平成29年3月31日～平成29年12月5日(完成)	株式会社 丸西組
③	H29梯川白江根固工事	平成29年8月10日～平成30年3月30日	株式会社 吉光組
④	H28梯川白江高水護岸工事	平成29年3月25日～平成30年3月5日	株式会社 江口組
⑤	H29梯川白江築堤護岸その1工事	平成29年9月26日～平成30年5月31日	株式会社 丸西組
⑥	H29梯川白江築堤護岸その2工事	平成29年9月26日～平成30年5月31日	株式会社 明断組
⑦	H29・H30梯川金屋高水護岸工事	平成29年11月1日～平成31年2月28日	株式会社 吉光組
⑧	H29梯川一針高水護岸工事	平成29年10月21日～平成30年7月13日	株式会社 江口組
⑨	H29梯川千代築堤工事	平成29年8月10日～平成30年3月30日	株式会社 吉光組
⑩	H28梯川古府築堤及びビコノ下排水樋管改築工事	平成28年9月24日～平成30年3月30日	株式会社 豊蔵組
⑪	H28梯川下浦排水樋管改築工事	平成28年11月16日～平成30年3月30日	中島建設 株式会社

※ 工事の工期は、現時点での予定です。



※ 地図上に描かれている番号について、赤字は「新規」、青字は「継続」、黒字は「完成」を示しています。

ご意見・お問い合わせ先

国土交通省金沢河川国道事務所調査第一課 TEL076-264-8800(代表)
小松出張所 TEL0761-23-4000

ホームページ <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/>
メールアドレス kanazawa-bousai1@hrr.mlit.go.jp

広報「かけはしがわ」は、ホームページでもご覧いただけます。なお、ご意見等がございましたら上記のメールアドレスへお送りください。

国土交通省 北陸地方整備局

